

～ 会派の活動を報告します ～

市民ベースの会

市民ベースの会では、古河市の教育改革を推進するために茨城県守谷市教育委員会を訪問しました。

視察研修において、「もりや型教育改革・守谷型カリキュラム・マネジメントとは」についての概要説明をスライドと資料を参考にしながら講義を受けました。

守谷市では「学習効果の最大化」と「教職員の働き方改革の両立を図ったプラン」を作成し、週3日以上5時間授業を中学3年生まで実現しています。

長時間労働による教師の疲弊を軽減するために、「時間枠を作

り、意識を変える」ことが大切であると再認識しました。

また、新教育課程実施検討委員会では、授業時間増への具体的な対応としてさまざまな検討がなされ、その結果、年間13日間の授業日の増加を実現しています。

まず、エアコンが整備された快適な環境で学習できることから夏休みの短縮。

次に、二学期制の導入による始業式・終業式に充てていた日を授業日にすること。

特筆すべきは、茨城県民の日、各学校の創立記念日も返上して授業を行っていることです。

84%の児童生徒から「放課後が充実した」また、66%の教職

員からは「働き方改革に有効」との調査結果が出ています。

古河市の教育においても、児童生徒のためになり、教職員の3分の2の賛同がある守谷型の導入をすぐにでも取り入れるべきだと会派一同考えています。

市民ベースの会は教育を通じて古河市発展のために努力します。どうぞよろしく願いいたします。



守谷市 議場にて

真政会

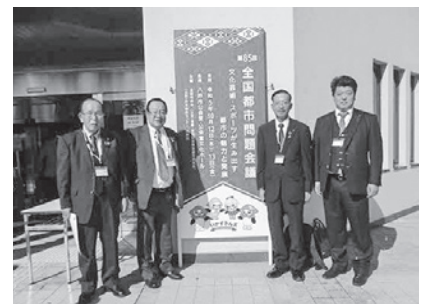
真政会では、10月12日～13日、青森県八戸市公会堂・文化ホールにて開催された、第85回全国都市問題会議に会派の4名で参加しました。八戸市は、北東北東岸に位置し、面積305平方キロメートル、人口22万人の中核市です。工業都市、国際物流拠点都市としても発展しており、「多文化都市・八戸」を推進するため、「はっちのまちプロジェクト」に取り組んでいます。

今回の会議のテーマは、「芸術文化・スポーツが生み出す都市の魅力と発展」でした。冒頭、本会議を主催する4団体を代表

して、福島県相馬市長の立谷秀清氏からあいさつがありました。子ども未来戦略会議、ワクチンの有料化、行政システムの平準化や災害対応等で市の負担が増えないよう、全国市長会のネットワークを通して取り組んでいきたいと述べられました。

基調講演は、東京芸術大学学長の日比野克彦氏、テーマは、「アートの役割って何だろう」で、アートは、ただ単に美術・音楽・演劇といった表現ばかりでなく「生きる力」であり、人が集いコミュニティができる多様性ある社会を築く基盤であり、社会的課題に対して、持続的に取り組み続けていくために大切なものであると述べられました。

一般報告は、文化事業ディレクター吉川由美氏、2010年春から八戸市のまちづくりに関わってきました。当時、空きビルだらけの街の再生に取り組んだが、街の再生には、市民が自分事として関わるのが大事で、文化政策は、市民が主体的に豊かに生き生きと生きられる地域社会を創る政策に他ならないと述べられたのが印象的でした。



青森県八戸市公会堂・文化ホール前にて